

4) 特別な支援を必要とする生徒への指導

① 徳島中央高等学校定時制課程昼間部

○ケース会議について

1 目的・ねらい

特別な支援を必要とする生徒を対象とし、特別支援学校に教育相談等を依頼し、巡回相談員に授業を見学してもらい、授業や生徒に関して適切な支援や指導法などを助言してもらい、授業や指導方法の改善、生徒理解を目的とする。

2 内容

対象生徒	ソーシャルスキルトレーニングA (午前)	2年次生	3名
	ソーシャルスキルトレーニングA (午後)	2年次生	2名
	ソーシャルスキルトレーニングC (午後)	2年次生	4名
	キャリアアップトレーニングA (午前)	3年次生	1名

3 取組

それぞれの授業を1時間見学してもらい、その後協議の時間を1時間程度設ける。そして、巡回相談員から指導・助言をいただき、それらをもとに授業改善を図る。

また、本校は「ともにまなぶ」高校生活応援事業をうけており、それに伴う特別支援教育支援員研修において、みなと高等学園の巡回相談員の方を派遣してもらい、生徒の支援に関する協議を行った。それとは別に鳴門教育大学附属特別支援学校に教育相談を依頼し、月1回程度巡回相談員を派遣してもらった。

6月26日 (火)	【授業見学】	ライフスキルトレーニングA (午後)	上手なお願いの仕方
	【授業見学】	ライフスキルトレーニングC (午後)	「とくしま中央一座においての人形劇」
	【協議】	みなと高等学園 巡回相談員2名	
9月14日 (金)	【授業見学】	ライフスキルトレーニングA (午後)	「私の四面鏡」
	【協議】	鳴門教育大学附属特別支援学校 巡回相談員1名	
10月19日 (金)	【授業見学】	ライフスキルトレーニングA (午後)	「すてきな断り方」
	【協議】	鳴門教育大学附属特別支援学校 巡回相談員1名	
10月26日 (金)	【授業見学】	ライフスキルトレーニングA (午前)	「デジタル紙芝居」
11月 1日 (木)	【協議】	みなと高等学園 巡回相談員2名	

- 1 1月27日（火）【授業見学】 ライフスキルトレーニングA（午後）
「落語のオチを考える」
【協議】 鳴門教育大学附属特別支援学校 巡回相談員1名
1月 7日（金）【協議】 鳴門教育大学附属特別支援学校 巡回相談員1名
ライフスキルトレーニングA（午後）の3学期の授業について事前打ち合わせ
- 2月にも鳴門教育大学附属特別支援学校巡回相談員と授業見学と協議を実施予定。

4 成果

巡回相談員の適切なアドバイスにより、生徒の認知の歪みや考え方のくせに気がつくことができた。具体的には、「私の四面鏡」という課題の授業において、言葉の微妙な違いが理解できていないことから、自分の概念と周りの概念に差があるのではないかと、そして、それにより人から誤解されてしまうことが過去にあったのではないかとという可能性を指摘していただいた。また、授業を見ていただいた際に、人の評価が気になり注意散漫になっていることやワーキングメモリの少なさが見て取れるので、視覚化する必要性を改めて説明していただいた。望ましい行為を強化するための方法や特別支援学校で使っている手法など、違う視点からの助言や指導方法の工夫は授業に役立つことばかりであった。

5 今後の課題

「通級による指導」が今年度から始まった。研修を重ねてきたが、実際に始まると生徒の実態も事前に把握していた課題とは違うものが出てくるなど、授業計画を変更せざるえない状況になった。そこで、ケース会等を開くことにより、特別な支援を必要とする生徒への適切なアドバイスをいただき、よりよい授業へと改善していくことができた。しかし、巡回相談員との日程調整が難しく、来て欲しいタイミングとズレてしまうことがあった。今後は、実態把握をしっかりと行い、余裕を持って授業前に事前に打ち合わせをすることを視野にいれて進めていきたい。生徒の状態によっては、年間指導計画を適宜見直していくことも必要であるので、変化に柔軟に対応できるよう努めていく。そして、巡回相談員とともに授業の計画を見直す機会を設けるとともに、特別支援教育の視点でのアドバイスをいただき、生徒にとってよい指導ができるようにこれからもしっかりと連携していきたい。

② 富岡東高等学校定時制課程

○購入図書について

1 目的・ねらい

本校定時制には、昼間働いている生徒が多く、性的に様々な立場の人と出会う機会が

あり、また、飲酒・喫煙や、化粧やピアスなどの成人のおしゃれなどについて、職場を通して成人の日常生活に触れることが多い。未成年の生徒が、それらに関して正しい知識を知り、自分らしさを大切にしたい選択ができるよう、以下の図書購入を計画した。

2 内容

次の3冊の図書を購入した。

- 1) ゲイのボクから伝えたい「好き」の？（ハテナ）が分かる本—みんなが知らないLGBT（太郎次郎社エディタス）
- 2) 新・健康教育シリーズ エビデンスにもとづいた新・アルコールの害（少年写真新聞社）
- 3) 子どものうちに知っておきたい！おしゃれ障害（少年写真新聞社）

3 取組

養護助教諭が生徒の保健指導の際に活用するとともに、同助教諭が発行する「保健室だより」に、購入図書の内容を紹介した。また、購入図書を生徒や職員がよく目につくところに配置した。

4 成果

「おしゃれ障害」に関して、言葉で説明するだけでなく、購入図書の写真や図を見せることで、その深刻さを生徒に知らせることができた。

アルコールに関して、購入図書内のデータを見せることで、アルコールが未成年にとってどのような害があるのか、客観的かつ視覚的に示すことができた。

LGBTに関して、現在のところ、生徒からの相談はないが、購入図書が、今後、生徒自身がLGBTである場合の指針にもなることが予想される。

5 今後の課題

成人になるにあたり、健康を保ち、アルコールや化粧等に関する正しい知識を得て自分らしい生活を享受するために、精神的に発達し、自己有用感をもつという人間的にも同時に成長するよう支援しなければならない。

③ 池田高等学校定時制課程

○校内職員研修・学習環境づくり等について

1 目的・ねらい

研修会や情報交換・共有を通して、教職員の教育的スキルや資質の向上を図り、特別な支援を必要とする生徒に対する理解ときめ細やかな支援・指導の充実に繋げる。

2 内容

発達障害に関する基礎知識，心の不調に対する対処方法等，特別な支援を必要とする生徒への支援・指導について学ぶとともに，授業に参加しやすい環境作りを行う。

3 取り組み

特別な支援（発達障害）と認知機能トレーニングに関する校内職員研修会
 教育相談職員研修会及びメンタルヘルス講演会
 授業に参加しやすくするための掲示方法の工夫やツール活用による学習環境づくり
 （ICT機器，ホワイトボード，大型タイマー等）

4 成果

発達障害についての校内職員研修を実施したことがきっかけで，7月から毎週水曜日の読書に時間に15分間の認知機能トレーニングを開始した。教育相談については，学校カウンセラーと連携して教育相談週間を設け，全員カウンセリングを実施した。心の不調に対する理解が深まり，生徒理解や教職員間での情報共有に繋がった。

授業環境作りに関しては大型タイマーを各教室に配備し，電子黒板やホワイトボードと組み合わせて活用した。大型タイマーの活用は個人作業やグループ活動の時間管理において有効であり，電子黒板やホワイトボードの活用と組み合わせることで生徒への指示が明確になり，より主体的な生徒の活動に繋がった。

教育相談や授業に関するアンケートの結果ではすべての質問で肯定的な評価が8割を超えており，良好な状況である。

※学校評価アンケート・授業評価アンケート 結果抜粋

④とてもそう思う ③そう思う ②あまり思わない ①全く思わない ④+③⇒肯定的評価

質 問	肯定的評価%→	H30	H29	H28	H27
【生徒】池田定時の先生はあなたの悩みや相談について，よく相談にのってくれますか。	89	100	94	83	
【生徒】あなたは池田高校に入学してよかったと思いますか。	100	95	94	83	
【保護者】教員は，三者面談で保護者の意見や相談を聴いてくれた。	100	100	100	87	
【保護者】教員は，子どもをよく理解し，子どもについての相談に適切に応じている。	100	100	100	86	
【生徒】授業に満足していますか	84	74	89	71	
【生徒】授業の進み方や内容はちょうど良い ※授業・学習評価アンケート(2学期)	100	96	99	97	

5 今後の課題

本年度は不登校経験者が全体の8割を超えており，精神的に不安定な生徒も多い。今後もその傾向は続くと思われる。中学校や関係機関とも連携し，入学前から生徒の実態把握に努めるとともに，学習面・行動面・対人関係等に悩みを持つ生徒に対して，個々に応じた支援ができるよう，職員の資質・能力の向上も含めて準備が必要である。